

7

食欲不振

1. 定義

がん患者の食欲不振の明確な定義はないが、「食事を摂取したい欲望が喪失している状態」をいう。がんにより生じる悪液質は、がん食欲不振・悪液質症候群 (cancer anorexia-cachexia syndrome : CACS) と称される。悪液質にはさまざまな定義や基準があるが、食欲不振を伴わない悪液質もあることに留意する。

2. 疫学

食欲不振は、がんの診断時に約半数に認められ、進行がんでは70%、緩和ケアに紹介された時点では80%以上である。胃がん、膵がんで頻度が高いとの報告もある。

3. 原因・分類

がん患者の食欲不振の主な機序は、腫瘍、あるいは免疫応答として免疫細胞から産生される炎症性サイトカインが視床下部の摂食促進作用を有するニューロペプチドYの作用を阻害することである。また、胃で産生されるホルモンであるグレリン*は食欲亢進作用を有する。がん悪液質ではグレリンが増加しているが、グレリンに対する抵抗性が出現しているため食欲不振を来す。脳内のセロトニン増加もがん患者の食欲不振と関連すると考えられている。

悪液質以外にも、がん患者の食欲不振に関連する二次的な原因は多岐にわたる。①消化器系：胃炎、逆流性食道炎、消化管閉塞、悪心・嘔吐、便秘、下痢など、②他の身体症状（痛み、呼吸困難、嚥下障害など）、③代謝異常：電解質異常（高カルシウム血症、低ナトリウム血症）、肝不全、腎不全など、④口腔内の問題：味覚障害、口内乾燥、口内炎、う歯、義歯不適合、歯牙欠損など、⑤治療関連：薬剤（オピオイド、抗がん剤など）、放射線治療、高カロリー輸液など、⑥精神症状：不安、抑うつ、せん妄などがある。さらに、臭気や環境も食欲不振の誘因になる。

4. 評価

食欲不振は主観的な症状である。食事摂取量は食欲不振の目安となりえるが、食欲不振があっても無理に摂取している場合は、食事摂取量は減少しないため、主観的な食欲不振を反映しないことがある。食欲不振も主観的な Numerical Rating Scale (NRS)、VASなどで評価する。食欲不振の診断基準としては、Functional Assessment of Anorexia/Cachexia Therapy ; FAACT) の食欲不振スコア (anorexia-cachexia subscale : ACS) という12項目からなる質問票があり、24点以下が食欲不振と診断される。

* : グレリン (ghrelin)

グレリンは主に胃で産生されるペプチドホルモンで、成長ホルモン分泌促進作用や摂食、消化管運動、糖代謝、心機能の調節など、多くの生理機能に関与している。胃のグレリン受容体に結合し、求心性迷走神経を介して視床下部に働き、成長ホルモンの分泌や摂食を亢進させる。

がん患者の食欲不振の評価では、悪液質に特徴的な早期満腹感のほか、便秘、悪心・嘔吐、味覚障害の評価も重要である。

5. 治療

食欲不振のある患者に食事摂取を無理に勧めることは、苦痛を与えることになるため避ける。食欲不振による苦痛や不安に対して共感的な対応が必要である。そのうえで、栄養にこだわることなく、患者の嗜好にあわせて食べやすいように形態、量、味付け、盛り付け、食器などの工夫を行う。

食欲不振の治療では、まず食欲不振の原因を検討し、改善が可能な病態があれば治療を行う。食欲不振がある場合の輸液は日本緩和医療学会編集『終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2013年版』を参考にして行う。悪液質では、積極的な栄養療法の効果は期待できないことが多く、輸液を開始する前に食欲が改善する方法の検討を優先する。

本ガイドラインの推奨のなかで記載された、コルチコステロイド、消化管運動改善薬、六君子湯、エイコサペンタエン酸 (EPA)、プロゲステロン製剤以外に、今後、期待されている悪液質の治療薬として、グレリン受容体作動薬が挙げられる。

(松尾直樹)

【参考文献】

- 1) Tisdale MJ. Mechanisms of cancer cachexia. *Physiol Rev* 2009; 89: 381-410
- 2) Sarhill N, Mahmoud F, Walsh D, et al. Evaluation of nutritional status in advanced metastatic cancer. *Support Care Cancer* 2003; 11: 652-9
- 3) Muscaritoli M, Anker SD, Argilés J, et al. Consensus definition of sarcopenia, cachexia and pre-cachexia: joint document elaborated by Special Interest Groups (SIG) "cachexia-anorexia in chronic wasting diseases" and "nutrition in geriatrics". *Clin Nutr* 2010; 29: 154-9
- 4) Bai Y, Hu Y, Zhao Y, et al. Anamorelin for cancer anorexia-cachexia syndrome: a systematic review and meta-analysis. *Support Care Cancer* 2017; 25: 1651-9